

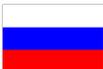


【韓国】 総合指数は週間で3.6%安と3週ぶり反落、今週は上値が重い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.6%安と3週間ぶりに反落した。新型コロナウイルスの感染拡大懸念が相場を押し下げた。週明け17日は新型肺炎の経済的打撃を嫌気する売りと、中国人民銀行（中央銀行）による中期貸出制度（MLF）金利の引き下げを受けた買いが交錯して小幅に反落。米アップルが1-3月期売上高は見通しに届かないと発表した上、米政府が中国の華為技術（ファーウェイ）への新たな制裁措置を検討中と伝わり、18日は続落した。19日は米ナスダック総合株価指数の過去最高値を材料に小反発。20日は反落して心理的節目の2200ポイントを割り込んで終え、21日の終値は4日以来ほぼ3週間ぶり安値を付けた。今週は上値の重い展開か。新型肺炎感染の収束が先行き不透明な中、運用リスクを取りにくいと予想する。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は0.7%安と3週ぶり反落、今週も世界景気悪化懸念が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.7%安と3週間ぶりに反落。新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化への懸念が重しとなる中、週半ばまではプラス圏にとどまったが、週後半に崩れた。週明け17日に前営業日比0.5%高となったRTS指数は18日に1.8%安、19日に1.8%高と荒っぽい値動きながらも前週末の水準を上回った。ただ、週後半は欧州株が大きく下落した流れでRTS指数も続落。原油相場が上昇したものの、原油販売プレミアムの低下が嫌気されたスルグトネフテガスが週間で3.2%安と下げ、指数の重しとなった。時価総額上位のズベルバンク・オブ・ロシアは0.4%安。一方、素材のポリウスが6.3%高、ノバテクが4.1%高だった。今週は新型肺炎の感染拡大を通じた世界景気の悪化に対する警戒感が引き続き重しか。

▼指数チャート

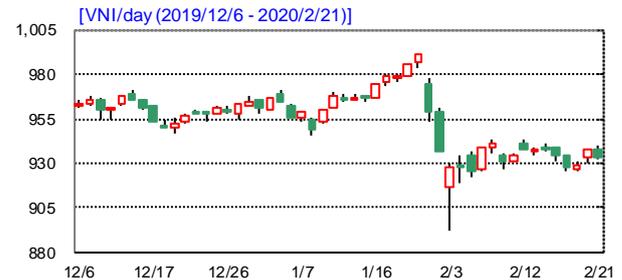


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.5%安と続落、今週も神経質な展開が続くか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.5%安と続落。中国からの生産拠点移転に対する期待が支援材料だったが、新型コロナウイルスの感染拡大が世界的に景気を悪化させるとの警戒感が重しとなった。米アップルが1-3月期の売上高未達見通しを発表したことでセンチメントが悪化し、週前半は軟調に推移したが、20日は中国からベトナムに生産拠点が移転するとの期待が高まり、反発した。ただ、21日は世界的な景気悪化への懸念で再び売り優勢となり、前日比1.5%安と反落した。個別ではマッサングループやビナミルクなどが週間で上昇した一方、サイゴンビール・アルコール飲料、ベトナム産業貿易商業銀行、ペトロベトナム・ガスが3-5%安と軟調だった。今週は新型コロナウイルス感染拡大の動向をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3% 高、中央銀行が 4 会合ぶりの利下げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3% 高と反発。週末の反落で上げ幅が縮んだ。週初の 17 日は 1 月の貿易赤字額が市場予想を大幅に上回ったものの、中国人民銀行（中央銀行）が銀行向けの短期金利を引き下げた効果で、指数は 4 営業日ぶりに反発。18-19 日は中央銀行の金融政策決定会合を 20 日に控え、利下げに対する期待感から買われた。20 日は政策金利が 0.25% 低い 4.75% に設定されたことが好感されて 4 日続伸したが、21 日は前日に中銀が今年の経済成長の見通しを下方修正した影響で前日比 1.0% 安と反落している。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.2% 安、貿易産業省が経済成長率見通しを下方修正

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.2% 安と 3 週ぶりに反落。3200 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 17 日は、貿易産業省が今年の経済成長率の見通しをマイナス 0.5-1.5% に下方修正した影響で、指数は 3 営業日続落。18 日は新年度予算案に新型コロナウイルスの感染拡大対策として、景気刺激策が盛り込まれたものの、米アップルが 1-3 月期の売り上げが予想を下回るとの見通しを発表した影響で下落した。19 日は 5 営業日ぶりに反発したが、20-21 日は続落している。今週は 24 日の 1 月の CPI に続き、26 日には鉱工業生産が発表される予定。鉱工業生産が 3 カ月ぶりに前年同月の水準を上回れば好材料。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0% 安、今週は 1500 ポイント回復に期待

SET 指数は週間で 2.0% 安と続落。週後半に節目の 1500 ポイントを割り込み低迷した。週初の 17 日は、19 年 10-12 月の GDP が前年同期比 1.6% 増と市場予想を下回ったものの、前日に実施された 5G 電波の競売で最多の 23 ライセンスを獲得したアドバンスト・インフォ・サービスが指数上昇をけん引し、3 営業日ぶりに反発。ただ、その後は新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速への懸念から売り優勢となり、20 日には終値で 16 年 11 月以来の安値を更新した。21 日は 4 日ぶりに反発して取引を終えている。今週は 24 日の 1 月の貿易統計（通関ベース）に続き、26 日には鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9% 安、今週はマハティール首相退任の動きに注目

クアラルンプール総合指数は週間で 0.9% 安と続落。週初に下落すると、その後は小幅なレンジでもみ合いが続いた。17 日は日本の 19 年 10-12 月の GDP がマイナス成長に転じた影響などで反落。19 日は中国での新型コロナウイルスの新たな感染者数の減少を受けてゴム手袋メーカーのトップ・グローブとハルタレガが指数の下落を主導した。20 日は小幅ながら 4 日ぶりに反発したが、21 日は新型ウイルスの世界的な感染拡大に加え、米ドル高リング安の進行も売り材料となり、反落して取引を終えている。今週は 24 日にマハティール首相が国王に辞表を提出したことに対する市場の反応が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。